

住宅用太陽光発電システムにおいて
自立運転機能の操作方法を表示するシール等の
作成ガイドライン

(第 1 版)

2020年7月
(令和2年7月)

一般社団法人太陽光発電協会

本ガイドラインは、一般社団法人太陽光発電協会の「住宅部会」にて作成しました。

<読者のみなさまへ>

全ての著作権は協会に帰属します。

特に規定のない限り、協会の事前の書面による許可なく、この出版物のいかなる部分も、いかなる形式、いかなる方法によっても、引用または利用することを禁じます。

本資料は、本資料作成時の著者の見解を示すものであり、本資料の内容を適用した結果生じたこと、また、適用しなかった結果について、著者は一切の責任を負いません。

一般社団法人太陽光発電協会

〒105-0004 東京都港区新橋 2-12-17 新橋 I-N ビル 8F

<http://www.jpea.gr.jp/index.html>

はじめに

太陽光発電システムの設置量は、2012年よりの固定価格買取制度の実施により、大きく増加しています。これらの太陽光発電システムは、通常時の発電（売電含）機能に加え、自然災害等により停電が発生した場合に、停電用コンセントから電力を供給する機能（自立運転機能）を持ち、電力（最大1500W）を得る機能を有しています。

近年、自然災害による大規模停電が発生して非常時の電源確保について社会的な関心が寄せられており、2019年9月の千葉県における大規模停電の際の調査では約8割のユーザーが自立運転機能を活用した結果が出ている一方で、活用したくても使い方が分からなくて活用できなかった方が2割程度おられることが判明しました。

このような状況を受け、本ガイドラインは、同様の自然災害が発生してしまった場合や電力会社のやむを得ない事情により停電が発生した場合を想定し、自立運転機能の操作をユーザーに判りやすく伝える「表示シール」を整えるために作成しました。

本ガイドラインに沿って「表示シール」を作成することにより、太陽光発電システムメーカーが異なった場合でも、自立運転機能を利用しやすい環境が整うことを期待します。

また機器本体に貼るシールのみならず、その他ご自宅内の目につきやすい場所へ提示する場合も同様に本ガイドラインに沿った作成を提案いたします。

目次

はじめに	3
1. 適用範囲	5
2. 目的	5
3. シール作成定義	5
4. シール事例	6
おわりに	7

1. 適用範囲

日本国内向けに出荷される住宅向け太陽光発電システムを対象とする。

ただし、停電時に電力供給が自動で切り替わる機能を有する太陽光発電システムや蓄電池付き太陽光発電システム等は除く。

2. 目的

太陽光発電システムを利用している発電事業者において、停電等が発生した場合に専用コンセントから電力を得る機能（自立運転機能）を速やかに利用しやすい環境を整える必要がある。

太陽光発電システム機器は、システムメーカー毎に構成機器が異なる場合があるが、システムメーカーが異なった場合でも、自立運転機能が利用可能となる手順の案内を目的とする。

3. シール作成定義

以下に示す3項目は、表示シールを作成する場合の記載必須項目として規定化することとする。

【記載必須項目】

- ① 自立運転へ切り替えるための操作方法
- ② 復電した場合の連系運転への復帰方法
- ③ お問い合わせ先

※自立運転への切り替え時の「太陽光ブレーカ（PV ブレーカ）／主幹ブレーカ」の操作に関しては、記載事項として必須では無いが、安全性を考慮して記載する場合はブレーカの設置場所が分かる様に記載する。

また、各太陽光発電システムメーカーにより、パワーコンディショナ等の設置場所（屋内設置型/屋外設置場所）が異なることや、表示器（発電量等を表示する機器）も必須機器では無いため、シール添付場所は各メーカーに決定頂くが、停電後に自立運転機能の利用を希望された場合に、確認する機器に当該シールを掲載頂く。

その他、注意事項（停電用コンセント最大出力等）や停電用コンセント位置等のイラストや写真などは、可能な限り記載をお願いするが、表示シールの大きさにより記載可否は各メーカー判断とする。

4. シールの例

1) 屋内設置型パワーコンディショナの表面カバー部分に添付するシールの事例

停電時に、発電した電気を使用する方法(自立運転)

運転スイッチ **専用コンセント**

△翌日も継続して自立運転をするときは、運転スイッチを一度「切」にしてから再度「入」にしてください。

【注意事項】
●夜(日射が少ないとき)は使用できません。●自立運転の際、生命にかかわる機器は絶対に接続しないでください。●最大出力は1,500W(AC100V)ですが、ポンプやモーター等、起動時に大きな電力を必要とするものには使用できません。
●自立運転は上記の切替操作が必要です。停電時に自動で切り替わるものではありません。
●機器やお客様の手などが濡れた状態でスイッチを入れると、感電や機器故障の原因となる場合がありますのでご注意ください。●詳しい操作方法は取扱説明書をご参照ください。

- ① 運転スイッチを切る
- ② 分電盤の近くにある太陽光発電用ブレーカを「OFF」にする
※太陽光発電ブレーカの位置・形状はお住まいにより異なります
- ③ 運転スイッチを入れ、表示部が“---”の点滅(待機中)から点灯している事を確認する
- ④ 専用コンセントに使用したい電気製品をつなぐ

戻さないで売電されません!

復電した場合は、連系運転に戻してください。
①運転スイッチを「切」にする②太陽光発電用ブレーカを「ON」にする③運転スイッチを「入」にする

お問い合わせ先

000-000-000

2) 屋外設置型パワーコンディショナにおいて、底面部分に添付するシールの事例

底面

注意ラベル

定格銘板

最大出力	00450W
定格出力	00310W
入力電圧	0000~0000
入力電流	0.00A
出力電圧	AC100V
出力電流	0.00A
最大電圧	0000V
最大電流	0.00A
重量	0.00kg

スイッチカバー (運転切換スイッチ)

●操作の前に取扱説明書をお読みください。
自立運転の使い方
1. 運転切換スイッチを「自立」にする。
2. 自立運転ランプが点灯後、自立運転用コンセントを使用する。
※使用後は、必ずプラグを抜き、運転切換スイッチを「連系」に戻す。
※ご使用の際は、事前に自立運転用コンセントの配線工事が必要です。
※自立運転用コンセントは必ず必要な場合があります。1ヶ所あたり最大15Aまでとなります。

お問い合わせ先

3) パワーコンディショナの底面では見えにくい場合、表示器部分に添付するシールの事例

表示器部分

●操作の前に取扱説明書をお読みください。
自立運転の使い方
1. 運転切換スイッチを「自立」にする。
2. 自立運転ランプが点灯後、自立運転用コンセントを使用する。
※使用後は、必ずプラグを抜き、運転切換スイッチを「連系」に戻す。
※ご使用の際は、事前に自立運転用コンセントの配線工事が必要です。
※自立運転用コンセントは必ず必要な場合があります。1ヶ所あたり最大15Aまでとなります。

お問い合わせ先

おわりに

協会としては、本ガイドラインが会員会社だけでなく、広く認知され積極的に活用される事で、自然災害等で停電が発生してしまった場合でも、太陽光発電システムが分散電源として活用されることを期待している。

以上